

上質な味と香りの早生品種「しずかおり」

〔研究のねらい〕

- ・静岡県の茶栽培面積のうち90%以上が「やぶきた」で占められている。
- ・摘採期の集中化や香味の画一化等「やぶきた」偏重の弊害が顕在化しているため、収量性、品質に優れ、「やぶきた」とは早晩性の異なる品種を育成する必要がある。

〔研究の成果〕

- ・来歴: 種子親「おくひかり」×花粉親「くりたわせ」
- ・交配年: 1989年(平成元年)
- ・早晩性: 「やぶきた」に比べて2日早いやや早生
- ・樹姿: 中間型
- ・樹勢: やや強
- ・耐寒性: 赤枯れ『やや強』
- ・耐病性: 炭疽病『中』、赤焼病『やや弱』、赤葉枯病『やや弱』
- ・耐虫性: クワシロカイガラムシ『中』
- ・収量性: 成木『多』、幼木『中』

平坦地(菊川市)の10a当たり収量は、「やぶきた」に比べて一番茶で101、年間で136と多収である(図1)。山間地(川根本町)でも一番茶で105、年間で118と「やぶきた」以上の多収である。

- ・品質: 『極上』

総合的に「やぶきた」を上回る。特に香氣、滋味が優れ、一番茶の概評では、『芳香、甘い香り、うま味あり』などと評価を得ている(図2)。



写真 「しずかおり」の一番茶

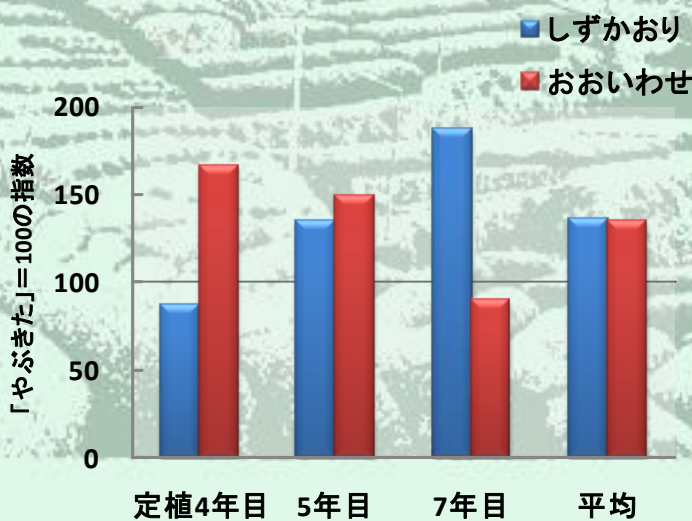


図1 10a 当たり年間生葉収量
(菊川市、「やぶきた」=100の指数)

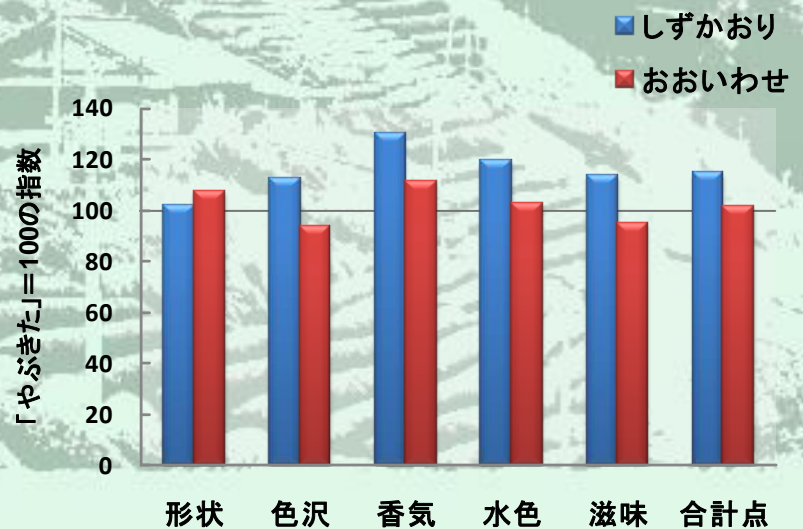


図2 一番茶の品質特性 (官能審査)
(菊川市3ヶ年平均、「やぶきた」=100の指数)

問い合わせ先 栽培育種科(育種) 0548-27-2682
代表 0548-27-2880
E-mail: ES-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp